

令和5年度 国公立大学附属病院医療安全セミナー  
令和5年6月1日（木）

*Working across boundaries*

# 大学病院と地域をつなげる薬剤師のチカラ ～ 病院薬剤師の立場から～

 横浜市立大学  
YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

 100  
信頼と革新の、その先へ  
1928 - 2028

横浜市立大学附属市民総合医療センター 医療の質・安全管理部、薬剤部  
勝亦秀樹

# 目的

自験例（2例）に基づき、下記について考察する

- **組織の壁を越えた「つながり」を持つこと**の意義、その効果
- **チーム活動を効果的に機能させる**ために、大切なこと
- **大学病院が地域とつながる**意義

# 施設概要



## 横浜市立大学附属病院 (横浜市金沢区)

31診療科 674床  
横浜市唯一の特定機能病院  
がん診療連携拠点病院、エイズ治療中核拠点病院



## 横浜市立大学附属 市民総合医療センター (横浜市南区)

10疾患別センター-25専門診療科 726床  
地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院  
横浜市救急医療体制における3次救急医療機関





Case1

薬剤師会・保険薬局との連携 に基づく、  
持参薬管理

# 「持参薬」を取り巻く現状



- 持参薬管理には、多くの時間が割かれる

- 原因の一つが、情報把握の難しさ（情報の不足・不明確さ等）

\*三坂ら：日本病院薬剤師会雑誌54(11),1335-1337,2018

- 持参薬の処方・指示の誤りに関する事例は、年々増加

\*日本医療機能評価機構：医療事故情報収集等事業第60回報告書(2020.3)

- 医療を取り巻く環境の変化により、「確認」「注意」でエラーを防止することには限界がある

\*日本医療機能評価機構：医療事故情報収集等事業第61回報告書(2020.7)

はじまりの時

# 新たな持参薬管理体制

「入院**前**の薬剤情報」を把握する業務…

入院時、病院だけで情報把握するのは、無理がある？

「入院前の薬剤情報」に強いのは…**薬局薬剤師**

**大学病院 × 地域薬剤師会** によるチーム活動

**目的：効率的な持参薬管理体制の構築**

つながり

# 持参薬管理の課題解決に向けて（経過）

2013

病院⇔保険薬局

旧・薬剤情報連携体制

2018

病院

Patient Flow  
Managementの推進

2019.9

金沢区薬事連携協議会

薬剤情報連携体制  
に関する再検討

2020.2

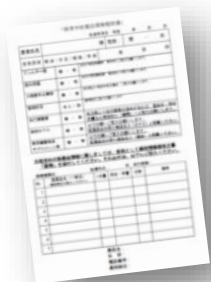
病院⇔保険薬局  
新・薬剤情報連携体制

2019年 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（薬機法）の改正

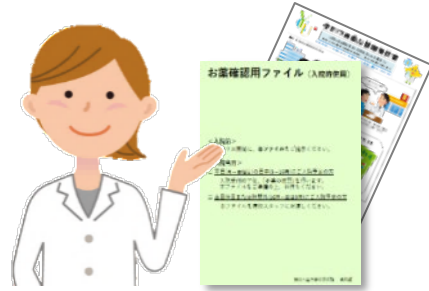
住み慣れた地域で患者が安心して医薬品を使うことができるようにするための薬剤師・薬局のあり方の見直し

薬剤師会  
による  
広い周知

経過とともに  
活用頻度は低下

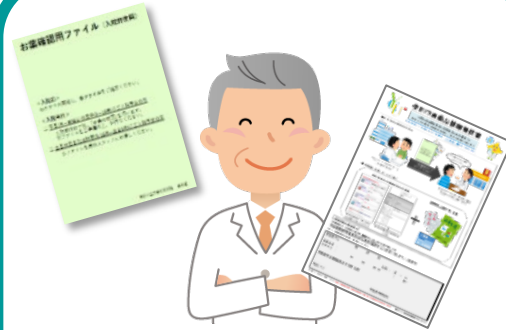


# 入院時の薬剤情報連携体制（病院⇔地域）



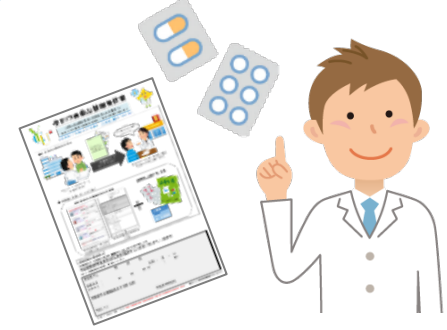
## 看護師が 運用説明

- 専用ファイルと「使用中医薬品情報提供書(以下、提供書)」をお渡し
- 薬局へ提示



## 保険薬局で 資料整理

- 提供書の記載
- 現在使用している薬剤の情報を整理
- 専用ファイルに集約



## 入院時に 持参薬面談

- 薬局からの情報をもとに面談
- 薬剤師不在下でも情報把握が容易に

### <提供書の構成>

- 記載項目※は、**お薬手帳等では入手困難な情報**
- そのまま持参薬面談で、使用できるフォーマット
- 提供書上に、「運用の概要」を記載

### ※記載項目（5項目）

薬の管理者、入院前中止薬  
自己調節薬、市販薬・サプリメント  
薬剤アレルギー・副作用歴

横浜市立大学附属病院薬剤部HP で公開中

<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~pharm/>

- 保険薬局の方へ>  
「使用中医薬品情報提供書について」





# 情報連携体制 <結果>

患者  
Patients

3wins

病院  
Hospital

薬局  
Pharmacy

「患者」にとってのwin 安全性の向上（一元的・継続的な薬物治療）

情報提供の概要

2020年2月2日～2020年10月30日に回収された提供書（n=1,126）を対象に、下記を調査

- 提供書4項目（入院前中止薬、自己調節薬、市販薬・サプリメント、薬剤アレルギー・副作用歴）の「該当あり」件数
- 提供書4項目について、薬局提供内容と入院時情報（出院の薬物情報もしくは入院時情報の状況）に不一致があった件数

	「該当あり」の件数	情報の不一致 (薬局⇄病院)
入院前中止薬	161件 (14.3%)	20件 (1.8%)
自己調節薬	331件 (29.4%)	72件 (6.4%)
市販薬・サプリメント	228件 (20.2%)	37件 (3.3%)
薬剤アレルギー・副作用歴	225件 (20.0%)	23件 (2.0%)

※示す欄は：保険薬局との情報連携に基づく持参薬管理体制の再構築とその効果  
神戸川島病院薬剤師会雑誌2021；53(2)；2,7

「病院」にとってのwin 正確な情報把握、業務時間の短縮

持参薬業務時間

1患者あたりの持参薬業務の平均時間

1. 対象：予定入院患者で全持参薬業務を実施した患者

2. 調査の概要：  
・持参薬業務時間（面談、鑑別入力、鑑査および全業務）  
・期間：運用変更前（2019年10月28日から11月1日）  
・運用変更後※（2020年3月9日から3月13日）  
※運用変更では、提供書に加え、報告日数短縮も実施

	面談	鑑別入力	鑑査
運用変更前 (n=155)	6.3	7.8	6.8
運用変更後 (n=45)	4.8	6.2	5.7

※示す欄は：保険薬局との情報連携に基づく持参薬管理体制の再構築とその効果  
神戸川島病院薬剤師会雑誌2021；53(2)；2,7

「薬局」にとってのwin 得られる情報の多様化、調剤報酬の新設

薬局からの声

入院を把握  
するきっかけになった！

これまで聞けなかったことを  
聴取できた！

令和4年度 調剤報酬改定  
「服薬情報等提供料3」の新設

薬局における対人業務の評価の充実

服薬情報等提供料の短縮

調剤報酬改定について、診療報酬からの手配に応じて、薬局において入用予定の患者の調剤業務に際し、調剤業務を一元化し、必要に応じて持参薬の管理も行うこととし、診療報酬に対して、当該患者の服薬状況等について文書により提供し、報告の締結を期待する。

（新）服薬情報等提供料3  
50円（3月に1回に限り）

※示す欄は：保険薬局との情報連携に基づく持参薬管理体制の再構築とその効果  
神戸川島病院薬剤師会雑誌2021；53(2)；2,7

「令和4年度調剤報酬改定の概要（調剤）」（令和4年3月4日版）  
厚生労働省 保険局 医薬課より引用

情報提供の概要

■ 2020年2月2日～2020年10月30日に回収された提供書（n=1,126）を対象に、下記を調査

1. 提供書4項目（入院前中止薬、自己調節薬、市販薬・サプリメント、薬剤アレルギー・副作用歴）の「該当あり」件数
2. 提供書4項目について、薬局提供内容と入院時情報（当院の保有情報もしくは入院時点の状況）に不一致があった件数

	「該当あり」の件数	情報の不一致 (薬局⇔病院)
入院前中止薬	161件 (14.3%)	20件 (1.8%)
自己調節薬	331件 (29.4%)	72件 (6.4%)
市販薬・サプリメント	228件 (20.2%)	37件 (3.3%)
薬剤アレルギー・副作用歴	225件 (20.0%)	23件 (2.0%)

症例 80代、女性 入院目的：手術

持参薬面談  
「薬剤アレルギーや副作用の経験はありません。」

薬局からの提供内容  
・薬剤アレルギー・副作用歴：  
リゾチーム（薬疹）、エナラプリル（咳）

病院が未把握の情報

### 持参薬業務時間

#### ■ 1患者あたりの持参薬業務の平均時間

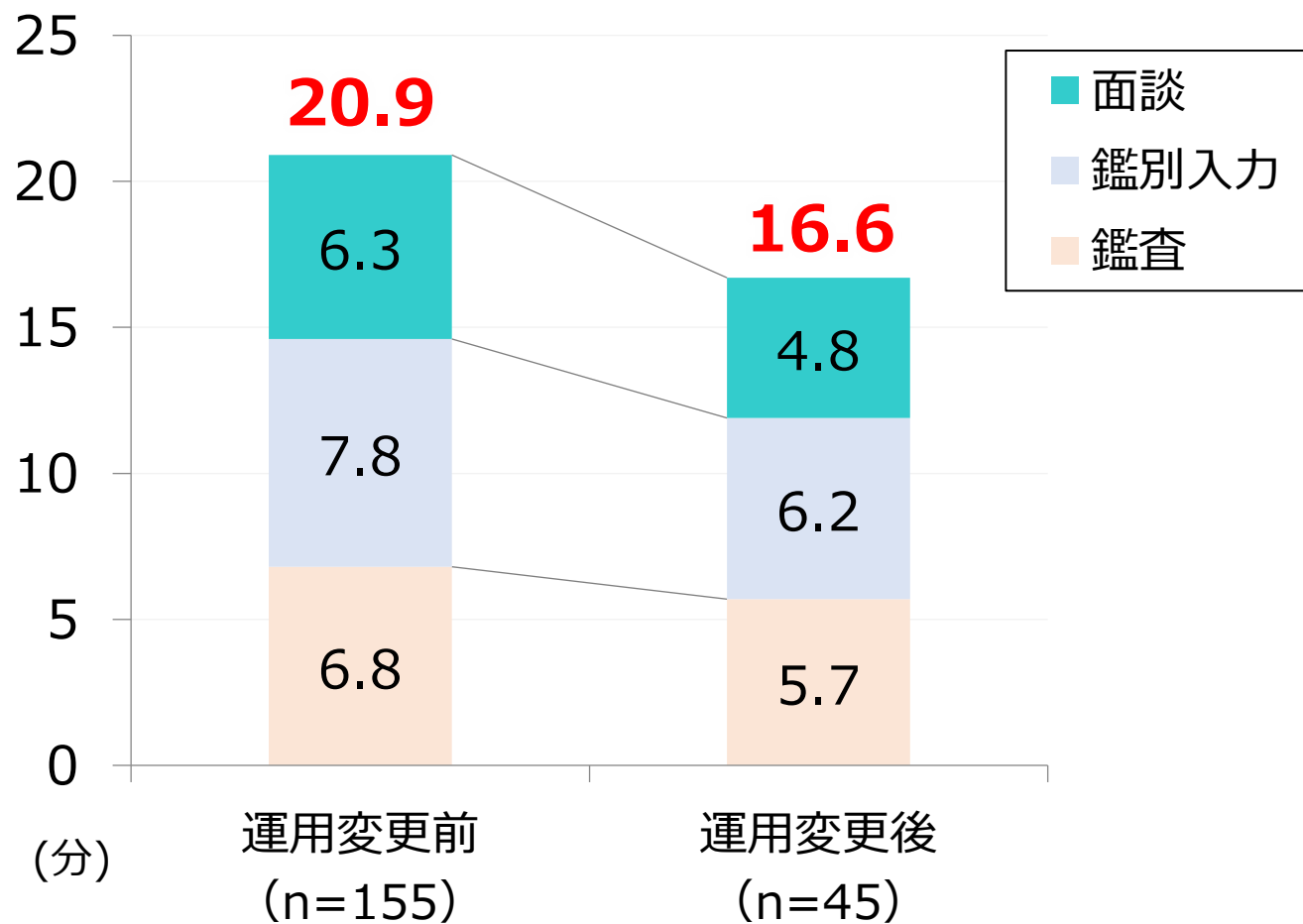
##### 1. 対象：

予定入院患者で全持参薬業務を実施した患者

##### 2. 調査の概要：

- ・持参薬業務時間（面談、鑑別入力、鑑査および全業務）
- ・期間：運用変更前（2019年10月28日から11月1日）  
運用変更後※（2020年3月9日から3月13日）

※運用変更では、提供書に加え、報告日数短縮も実施



● 薬局からの声 ●

入院を把握

するきっかけになった！

これまで聞けなかったことを  
聴取できた！

令和4年度 調剤報酬改定  
「服薬情報等提供料3」の新設

薬局における対人業務の評価の充実

服薬情報等提供料の見直し

- 服薬情報等提供料について、医療機関からの求めに応じて、薬局において入院予定の患者の服用薬に関する情報等を一元的に把握し、必要に応じて持参した服用薬の整理を行うとともに、医療機関に対して、当該患者の服薬状況等について文書により提供した場合の評価を新設する。

(新) 服薬情報等提供料3

50点 (3月に1回に限り)

[算定要件]

- ・ 入院前の患者に係る保険医療機関の求めがあった場合において、当該患者の同意を得た上で、当該患者の服用薬の情報等について一元的に把握し、必要に応じて当該患者が保険薬局に持参した服用薬の整理を行うとともに、保険医療機関に必要な情報を文書により提供等した場合に3月に1回に限り算定する。
- ・ これらの内容等については薬剤服用歴に記録すること。

勝亦秀樹ほか：保険薬局との情報連携に基づく持参薬管理体制の再構築とその効果  
神奈川県病院薬剤師会雑誌2021；53(2)：2-7.

「令和4年度調剤報酬改定の概要（調剤）（令和4年3月4日版）  
厚生労働省 保険局 医療課」より引用



# 小括1

- 日常的な「つながり」を活かした課題解決
- それぞれの「強み」を活かす
- 目的や価値観を共有することの大切さ
  - ▶ 「一元的・継続的な薬物治療の提供」に関する共通の課題認識

病院だけで解決困難な課題に対し、地域とつながり、「**相互恩恵型**」の持続可能な仕組みとなった。



Case2

日常的なつながりに基づく、  
**緊急的状況の克服** に向けた取り組み



はじまりの時

# 新型コロナウイルス感染症

2021年2月 新型コロナワクチン  の登場

横浜市人口 377万人（うち高齢者 97万人）

「横浜**市**」から「横浜市**薬剤師会**」へ、ワクチン調製依頼

注射剤の調製業務に強いのは…病院薬剤師

地域薬剤師会 × 大学病院 によるチーム活動

目的：円滑なワクチン調製体制の確立

# ワクチン調製に向けた協働

Collaboration

横浜市 **薬剤師会** × 横浜市立 **大学附属病院**



シミュレーション  
への参加

- 市主催の、集団接種会場シミュレーションへの参加



調製の見学  
(薬剤師会が来訪)

- 調製風景を見学
- 手順や作業環境等を動画撮影し、薬剤師会会員に配信



調製に向けた  
講習会開催

- 講義+調製訓練
- 156名が受講（横浜市全区+市外からの参加もあり）



# ワクチン調製に向けた協働

金沢区での調製研修会の開催、各区での調製に参加



※写真：横浜市薬剤師会提供



# 小括2

- 地域における緊急的状況の克服
  - ▶ 緊急的に機能できる、良好なパートナーシップ
  - ▶ チームで、目的を共有
  - ▶ 「強み」を活かす
- 強力なリーダーシップの発揮

日常的な地域とのつながりが、**緊急的状況にも柔軟に対応する力・機能拡張**につながった。



## まとめ

- それぞれが強みを活かした相互恩恵型の「つながり」は、柔軟に対応する力を高め、**医療システムの持続性に資する**可能性がある。
- チーム活動を効果的に機能させるためには、**目的の共有、良好なパートナーシップ、リーダーシップの発揮**が大切と考えられる。
- 大学病院が地域とつながることは、**地域全体で「持続可能で質の高い医療」の実現**につながる可能性がある。